

令和2年度第2回

隠岐の島町総合教育会議 会議録

1. 開催日時 令和3年1月29日(金) 9時00分～10時20分

2. 開催場所 隠岐の島町役場 3階 303会議室

3. 出席者 町長 池田 高世偉  
教育委員会 教育長 野津 浩一  
教育委員会 委員 野津 幸恵  
教育委員会 委員 山下 豊範  
教育委員会 委員 常角 敏  
教育委員会 委員 谷田 一子

【事務局】

総務学校教育課長 吉田 隆、社会教育課長 野津千秋、  
中央公民館長 金坂賢一、総務学校教育課長補佐 中村恒一

4. 協議事項 第2次隠岐の島町教育大綱の策定について

5. その他 中学生議会についての意見交換

6. 傍聴人数 0名

7. 会議の経過 別紙のとおり

8. 会議録作成者 総務学校教育課 総務係 中村恒一

9. 会議録署名者 署名日 令和 3年 3月 24日

町長 池田高世偉

教育委員 野津幸恵

## 別 紙（議題の経過）

### ○開 会

事務局職員が出席者の確認をした後、町長は開会を宣言した。

（池田町長）新型コロナウイルス感染症に関して、ワクチン接種が見えてきているが、いまだ終息は見えない中、本町では皆様のご協力もあり、幸い発症者が出ていない状況である。

一方で観光交流に関連して経済活動への影響が大きくなっているが、これらを規制することはできない。あくまで自粛をお願いするだけである。町民の方からもご意見をいただいているが、共存していくしかないとお答えしたところである。

昨日、国の第3次補正予算が通過したが、本町でも経済活動等に対して7億円近いコロナ感染症対策事業を実施している。

昨年2月に新型コロナウイルスが発生してから、本町においても学校閉鎖等実施し、社会の状況も大きく変わったところであるが、1年経過してある程度、新型コロナウイルスの実態が見えてきたところで、これに対する隠岐病院の緊急医療体制の拡充などを含め、十分とは言えないかもしれないが、体制を整備してきたところである。

まだまだ予断を許さない状況で、皆様に細心の注意をお願いし、また、我が町もいつ緊急の状態となるかわからず、その節には子どもたちのこと、学校教育のことについて改めてご支援をいただきご助言をいただきたい。

ここから総合教育会議となるが、第2回の会議ということで教育委員の皆様には会議の開催が少ないとのお考えもあろうかと思う。総合教育会議が十分な意思疎通を図り、協議調整をする場だと法律でも定められている。教育長より報告を受けており、教育委員の皆様の真摯なる真剣な協議も聞いており、その点からも安心しているところである。

### ○会議録署名者の氏名

町長は、野津委員を議事録署名者に指名した。

### ○協議事項

#### （1）第2次隠岐の島町教育大綱の策定について

事務局より第2次隠岐の島町教育大綱（案）について、前回の教育委員会の会議の中で協議した修正点等について説明と確認を行った。

（常角委員） 基本目標の「隠岐びとのこころ」については、ここの記載でいいと思うが、いずれにせよ学習をしなければ理解を得られないし、捉えることはできないと思うので学校教育、社会教育でやっていく大変重要な内容になる。

基本施策（1）①の中の「学校・家庭・地域が一体となりふるさとに愛着と誇りを育み」は非常に大切なところで、ここを具体的にどう取り組むかが学校教育の要となる。

ふるさと教育の全体計画が各学校で作られているのかどうか、また、これに基づく年間計画が作られているのかどうか非常に大切なところであり、指導主事を中心に把握する必要がある。学校経営の重点にふるさと教育という文言がない学校があり、すべての学校でふるさと教育を充実するという観点から、教育委員会としてチェックし、実施していくように向ける必

要がある。

- (池田町長) 社会教育主事、指導主事等を含めて全体的なふるさと教育の方針を作るが、地域の特色や地域ごとの繋がりもあり、最終的には学校単位のふるさと教育となるのか。
- (常角委員) そうなってくるが、ふるさと教育の担当には、隠岐のことについてあまり詳しくない教員が担当となることもある。困っていれば一緒に協議しながら作り上げていく必要がある。それぞれの学校に行って中学生議会を見てきたが、その担当者の指導により大きな開きがあると感じる。
- (野津委員) 常角委員より、この大綱を基にどのように取り組んでいくかという具体的なところが出たと思う。  
基本施策の(1)②に「地域間交流等の活動を通して」とあるが、どういうところを目指した地域間交流等を言っているのか。町内の学校間の取り組みなのか、それともグローバル化という言葉にもあるように、この島を出たもっと広い意味で「グローバル化に対応できる人材を育てる」という意味であるのか。それによって、②の中にこの項目があるべきなのか、或るいは、③にあるべきものなのかが変わってくると思うので皆さんの意見を聴きたい。
- (常角委員) グローバルという言葉を見ると隠岐高校がオーストラリアと交流していることが浮かんでくる。地域内、国内に関わらず世界にという意味で記載してあると捉えた。
- (池田町長) グローバル化に対応した人材を育てるについては④ではないか。教育環境の整備に入るべきではないか。
- (野津委員) ④の「隠岐びとの育成を目指した「教育の魅力化」を図り本町の将来を担う人材を育成します。」とあり、高校魅力化についてもここに入るのではと思う。
- (池田町長) 最初の質問に対して、事務局としては、原案を作る中でどこに視点をおいた考えのものか。
- (中村課長補佐) 豪州交流事業がもとになっていたと思う。
- (野津委員) ①がふるさと教育、②は子どもの内面が強調されている。③が学力、④が教育環境の整備となっている。高校の魅力化に関連しているとなると④に入る項目になる。
- (常角委員) 「グローバル化に対応した人材育成を支援します。」と修正した上で④に入ればよいのではないか。
- (野津教育長) グローバル化がオーストラリアとの交流についてのみを見ているのであれば、教育委員会として微妙なスタンスである。新型コロナウイルスのこともあり、事業を行っていないが肯定的な意見だけでなく色々な意見が出ているところである。
- (吉田課長) オーストラリアとの交流も確かにあるが、一方で友好都市を結んでいるポーランドクロトシン市との交流も都万中学校で行っているし、もっと広い意味合いも含まれていると考える。
- (山下委員) 地域間交流という言葉があることで範囲が狭くなっている。地域間だけでなくもう少し表現を変える必要がある。
- (池田町長) 教育の魅力化の中にすべてが含まれているところである。その中で特にグローバル化等を入れていかないと。
- (金坂館長) 総合振興計画の中には地域間交流に併せて国際交流も入っているのも山下委員の言われたことにも繋がる。

- (池田町長) この件については、④に入れて、地域間交流と国際交流の文言を入れることでどうか。もう一度練り直して、書面で提案することとしたい。
- (山下委員) 基本目標の「隠岐びと」がしっくりこない。その中でも「隠岐らしさ」が引っ掛っている。「隠岐らしさ」はいい意味だけではない。隠岐に住んでいる人が皆、隠岐を愛して欲しいという括りであれば「隠岐想いびと」という表現が浮かぶ。「隠岐びとの心」の説明の中にもそれぞれの捉え方があると書いてあり、それならば「隠岐想いびと」でいいのではないか。  
第2次総合振興計画策定の際にも色々と議論したところである。
- (池田町長) 個人的な話だが、第2次総合振興計画で「隠岐びと」という言葉が外れた時に自分も意見を言った。  
第1次総合振興計画の以前に、合併時の新町建設計画を作った。そこで初めて「隠岐びと」という言葉を使った。ただの隠岐の人材を育てるのではなくて、「隠岐びとを育てる」という言葉がこの計画から入り、この計画を引き継いで第1次総合振興計画となり、町民憲章にもなった。  
第2次の総合振興計画を若手の委員にお願いし策定したときに、「どうして隠岐びとという言葉が定着したのに外すのか。」と聞いたとき、「人と書いてだけで分かるんじゃないか。」と言われたがそれ以上反論しなかった。  
最初に「隠岐びと」という言葉を作った時に、沖縄の人たちが誇りを持って「島人(しまんちゅ)」と言っているが、それが隠岐にとって何だろうかと考えたときに「隠岐びと」という表現にした。  
第1次総合振興計画の策定の際にも委員に「隠岐びと」の定義とは何かと聞かれ、「隠岐の人間が隠岐を誇りに思う心、隠岐を好きだということが表に出せるということが隠岐びとである。」と説明し載せていただいた。  
教育大綱の策定の中で改めて「隠岐びと」を見た時、やはりイメージとして残して欲しかった。
- (山下委員) 第2次総合振興計画策定の際に、町長から直接その思いを伝えていただききたかった。
- (谷田委員) 自分は、「隠岐びと」という言葉をすごくいいと思っている。隠岐出身ではないが、自分を「隠岐びと」と思っている。自分のルーツに誇りが持てること、ふるさとを愛することだと思っている。  
学校教育でも、子育てでも「隠岐に戻って来たいと考える子どもを育てていきたい。」という思いが常にあった。隠岐に住んでいてもいなくても誇りに思えること、それを感じさせる言葉であり、定着させたいという気持ち。言葉の持つ力として、そういった言葉がひとつあると大きな力を持っていくものになると思う。それぞれの立場でイメージを膨らませていく「隠岐びと」、そんな言葉になっていけばいい。いい言葉だと思う。
- (常角委員) 「隠岐らしさ」については、山下委員が言ったようにプラス面もあるし、マイナス面もある。マイナス面では、遅刻しても「隠岐時間」と言って平気な顔ということがある。学習をしながら「隠岐らしさ」をどう捉えるのか。自分はプラス面の方が多いと思っている。
- (谷田委員) 海士町の「ないものはない」という言葉は、波及して色々な所で効果をもたらしている。言葉ってすごい。
- (野津委員) 自分も隠岐出身ではないが、隠岐に助けられてこうやって生活できている。隠岐の人とか自然とかに助けられて今がある。

先日もお話ししたとおり、「隠岐びと」という言葉は好きな言葉ではあるが、自分も「隠岐らしさ」には引っ掛かるところがあり、町民憲章を調べてみたが「らしさ」は載っておらず、この「らしさ」によってよい面を表したかったのではないか。「隠岐を大切に思う心」として「らしさ」がない方がすっきりすると思った。

(山下委員) 自分も実は「隠岐びと」という言葉は好きであるが、それだけにはっきりとさせたいと思っている。

(池田町長) これを見て思ったのは、一人ひとりの「らしさ」が違う。「隠岐を好きだ。大切にしなければならない。」ということは分かるが、自分にとっての「らしさ」は人と違うことからはっきりと表現できなかったのではないか。

(吉田課長) よいところ、悪いところあるが、自分は古い歴史からくる隠岐にしかないものが「隠岐らしさ」ではないかとプラス面に考えていた。

(池田町長) 「らしさ」があった方がよいのか、ない方がよいのか決める必要がある。ここは、「らしさ」を取り「隠岐を大切に作る心」にしたい。

(常角委員) 次に4. 基本構想の(1)③の1行目の「自らの人生と地域社会の未来を切り開くための生きる力を育む」という言葉があるが、非常に心に響いてくる場所である。中学校、高等学校の進路指導で具体的にどう取り組むか大事になってくる。これを実現するために教育委員会がどう支援し、具体的に何をするのが問われる。

(吉田課長) 学力を上げる計画の中で、常角委員からも意見をいただいた、この「生きる力」に力を入れようということで計画書が出来た。具体的に展開していきたい。

(常角委員) 多感な時期の中学生、高校生の心を揺さぶらないと育成できない。将来、子どもたちが職場社会、地域社会、家族社会の3つの社会で生きていくためには、どんな仕事に就くのかだけの進路指導ではいけない。

(山下委員) 教育大綱は、位置づけとして教育行政の基本方針であると思うが、現場の方に伝わっておりしているのか。ある知り合いの教員に聞いたら「教育大綱を聞いたことはあるが、見たことはない。」とのことであった。はっきりと知らせていただきたい。

(野津教育長) 教育委員会が事業をする中で色々な計画があり、その大元が教育大綱である。校長先生方には示してきているが、行政の考え方をしっかりと教育現場にも知らせなければならないと考えている。

(山下委員) 教育現場は、文部科学省からの影響が強いようである。

(常角委員) 学校教育現場としては、文部科学省や県教委から下りてきたものについては、内容をよく見ている。

(野津委員) 確かに学習指導要領など、実際の指導に直結することが下りてくる。しかし、その上で隠岐の島町として子どもたちをどのように育てるのかという考え方を学校教委連絡会などでしっかりと伝えていただきたい。

(常角委員) 教頭会などを活用してもいいと思う。

(谷田委員) この規模感を活かした、立ち回りのいい教育活動が展開出来ればいいと思う。各学校の取り組みも重要であるが、町として高校、中学や島前、島後のエリアを超えた展開が組めればいいと思う。一人ひとりへの細やかな対応が小中高と出来ていくと子どもを育てる親の心に響いていく。それがこの島の魅力になると思うので意識してやっていただきたい。

(池田町長) 他になければ教育大綱の策定については以上としたい。帰られて気付いた点があれば事務局に連絡いただきたい。

(吉田課長) 皆さんからご意見をいただいたので、事務局で修正しお示ししたい。そして、3月に最終の総合教育会議を開催して策定としたい。

当初のスケジュールでは、パブリックコメントを実施することとしていたが、実施要綱を見ると町民の方に義務を課したり、権利を制限するものなどが対象であるが、今回の教育大綱については第2次総合振興計画を踏まえ、整合性をとったもので、これには馴染まないため行わないこととしたい。

## (2) その他

(常角委員) 報告であるが、12月の初めに第11回竹島・北方領土問題 中学生の作文コンクールの審査会が開催された。そこで、今回は、西郷中学校の生徒が隠岐の島町長賞をいただき、もう一人が入選ということで初めて西郷中学校のみとなり少し残念であった。

2月に表彰を受けるが、作文の中身がとても素晴らしく、リーフレットの記載について指摘をしており、審査員からもリーフレットの改訂が必要ではとの意見が出ていた。

### ○ 中学生議会の意見交換

(野津教育長) 先日の教育委員会の会議で中学生議会のことでいろいろと意見が交わされた。今後のことも含めて直接、町長にご意見を伝えていただきたい。

(野津委員) 五箇中学校が議場で中学生議会をするのを見て、また、都万中学校でも見せていただいた。議場で町長に答弁してもらうのが貴重な体験となっている。視点を絞り、今の隠岐の島の課題について、子どもたちがすごく真剣に取り組んでいて感心した。指導に対する先生方のご苦労が見えた。

各学校の担当者等が、他の学校の中学生議会を実際に見られると自分の学校の指導に活かせると感じた。また、町長の答弁が学校側に事前に伝えられていて、子どもたちも再質問を考える時間があってよかった。

(池田町長) 子どもたちには、あのような場所で発表することが大切であると思っている。スポーツにしてもいい施設で経験してもらいたい。

意見にもあったように各学校の先生方も来られたらよいと思う。

(常角委員) 中学生議会については、自分が島前から戻ったとき、当時の教育長からこういったことがやりたいとの相談を受け、ふるさと教育の集大成として、今後の町のビジョンを考える大切なこととして実施した。

河童公園のトイレ整備や買い物弱者の高齢者対応等をしていただいたり、子どもたちの主張が実現することもあった。一方で、財源のこととかを言われこのまま続けてもという意見もあるようだが、将来の「隠岐びと」を育てる上でも大事な取り組みだと考える。

(池田町長) 子どもたちは非常にするどい。印象に残っているのが、港の整備の話がされたとき、「味も匂いも音もない。」という言葉で質問された。つまらない港という意味だ。今、港の整備に向かっているところであるが、子どもたちはそこをはっきりと見ている。先ほど言ったように、河童公園トイレ整備や後押ししてくれた寺の前公園整備、子どもたちの意見は取り入れていきたいと思っているし、今回の提案でも必要性を感じるものがあつた。お金がないからダメという表現はしないが、町の財源から出来ないことが

あるのを分かってもらうことも中学生にとっては大切である。

(常角委員) 中には夢物語のような提案もある。指導者が事前に問題をあきらかにした上、子どもたちが考えたものが出てくるべきだと思っている。

(池田町長) 以前、愛の橋商店街に駐車場がないという質問があったが、2回再質問がきた。思いを伝えようとする気持ちがすごく伝わってきた。

(谷田委員) あの時は、関係者として関わったし、我が子もそこで学んだ。子どもたちの姿に感激、子どもと大人が真剣に語れる場があることが素晴らしい。駐車場はダメだったが、発案を実際に形にさせていただけたことは、すごい経験で、町長が「大人になったときに協力して欲しい。」と語ったことは子どもたちに残っていると思う。

(野津教育長) 次年度は、開催する方向で進めたいと思っているのでお願いしたい。

(池田町長) こういった機会をまた作っていただいて、伺った内容を参考とし、町行政にあたりたいと思っている。

○閉会

町長は閉会を宣言した。